

「はやし田植え」とも呼ばれる田の神を祭る行事  
太鼓田植



指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	たいこたうえ
所在地	新見市哲西町矢田・神郷下神代
指定年月日	平成20年3月7日
解説	備中北部で伝承されている田植え行事であり、「はやし田植」ともよばれる。「さげ」と呼ばれる男性が打つ太鼓に合わせて、田植歌を歌われ、「植え子」と呼ばれる花笠姿の早乙女が苗を植えていく。能率を上げ楽しく田植え作業を行うとともに、田の神を称え、五穀豊穡を願う共同作業の慣習として長く伝承されてきた。第2次大戦後に一時途絶えたが、保存会により後世への伝承されている。
アクセス方法	哲西:「きらめき広場」JR矢神駅から約1.5km / 神郷:「夢すき公園」JR備中神代駅から市営バス坂根線「門前」下車
公開状況	哲西:5月3日「鯉が窪湿原まつり」 / 神郷:6月初旬「夢すき公園」
設備	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 20px;"> <span>駐車場 </span> <span>トイレ </span> </div>
備考	「鯉が窪湿原まつり」のほか、7月初旬には岡山後樂園での「お田植え祭り」にも出演し、この季節を彩る祝祭の風物詩としても定着しています。

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	太鼓田植
よみかた	たいこたうえ
しょざいち (所在地)	新見市哲西町矢田・神郷下神代
していたひ (指定した日)	平成20年3月7日
せつめい	「さげ」という男の人が打(う)つ太鼓(たいこ)にあわせて、「うえこ」という花笠姿(はながさすがた)の若(わか)い女の人たちが、田植歌(たうえうた)を歌いながら、苗(なえ)を植(う)えていく行事(ぎょうじ)です。田植え作業(さぎょう)を楽しく行いながら、田の神さまに豊作(ほうさく)を願(ねが)うために行われてきました。今では行事として地元(じもと)のまつりのときなどに行われ、受(う)けつがれています。